

教育

毎週火曜掲載



夜間部の生徒たちの作品を展示した「泊美術展覧会」。作品を眺める生徒と教員ら。15日、那覇市の泊高校

個性豊かな作品ずらり

泊高で美術展 生徒の落書ききっかけ

泊高校はこのほど、学校の玄関先で、夜間部の生徒たちが作成したイラストや写真を展示した「泊美術展覧会」を開催した。作品はスマートフォンで描いたイラストや鉛筆画、水彩画、写真など。生徒たちの作品のそばには、制作に打ち込む生徒の姿に触発された教員らの作品も数点展示された。

きっかけは、授業中の生徒の落書き。夜間部3年の担任、喜久川稔教諭が学習プリントに描かれた落書きに気付き、

「過去にも回収したプリントにいい落書きがあった」と思い出し、作品展の開催を校長らに提案した。開催期間中には授業参観や前期の卒業式が

あり、保護者も生徒たちの作品を眺めて楽しんだ。

スマートフォンでイラストを描いた4年の山本美桜さん(21)は「普段から趣味で描いているけど展示するのは初めて。すこし恥ずかしいけど『うまいね』と声を掛けられてうれしい」と照れくさそうに話した。

鉛筆画が趣味だという4年の赤嶺潤さん(19)は、今回初めてスマートフォンを使い、目玉焼きの絵を描いた。「白身も黄身も、うまく陰影をつけないと立体的な絵にならない。難しかったけど、友だちや先生に褒められてうれしかった。次は人を描きたい」と笑顔で語った。(嘉数陽)